

《第七報》

**セーブ・ザ・チルドレン ハイチ地震緊急支援活動
地震発生から1カ月経過
雨季を前にさらなる支援を**

社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

ハイチに壊滅的な被害をもたらした大地震の発生より、2月12日で1ヶ月を迎えます。子ども支援の国際NGOセーブ・ザ・チルドレン（以下、SC）は、震災直後より迅速な緊急支援を行っていますが、今回の大地震は広範囲にわたっており、今後、より一層の国際社会の支援が必要とされています。

今回の地震による被災者は300万人（うち半分以上が子ども）にのぼり、20万人が死亡、150万人が家を失ったと推測されています。被災者は依然、倒壊した建物の瓦礫の中で、住む場所もなく、食糧の不足と闘いながら生活の再建を模索しています。また、ハイチ政府は、現在首都のキャンプにいる40万人を郊外に新設するテント村に移送する計画を立てています。このような状況の中で、震災前より脆弱であったハイチの子どもたちの健康と健全な未来が危機にさらされています。SCは、食糧や水、生活用品、医薬品の配布、医療支援や子どもたちの保護を行うと同時に、1日も早く子どもたちが学校へ通えるよう、学校再開のための支援活動に尽力しています。

ハイチでは、3月中旬から4月上旬に雨季に入ります。平時より貧弱な下水道が課題となってきましたが、今回の地震によって深刻な被害を受けていることに加え、がれきが下水溝を詰まらせて汚水が溢れ出すことによって、人々の衛生環境をさらに悪化させることが懸念されています。SCは、1978年よりハイチで支援を行っており、現在300人以上のスタッフが現地で活動しています。ハイチの復興には時間が必要です。ハイチの人々の強い回復力とともに子どもたちの未来を見据えて、80万人（うち47万人の子どもたち）に支援を行うことを目指して、長期的な活動を続行していきます。

(C)Robert King / Polaris
仮設診療所にて診察を待つ生後2カ月の赤ちゃんを抱く母親**これまでのおもなハイチ地震緊急支援****◆子どもの保護**

- ・ポルトープランスとジャクメルに開設した18のチャイルドフレンドリースペースにて15,000人の子どもたちを保護
- ・UNICEF、IRC、赤十字などと協力して、家族捜索と再会支援のために、病院やキャンプの子どもたちを登録

◆保健・医療、水・衛生、緊急物資配布

- ・14の巡回診療チームによって10,630人の患者を45か所で診察
- ・12万人以上に食糧を配布（うち72,000人が子ども）
- ・59,000人以上に清潔な水を支給
- ・48,000人以上に毛布や衛生用品、ビニールシートなどの生活必需品を配布
- ・7,800人分相当の仮設トイレを設置

ハイチ地震緊急支援基金のご寄付のお願い

【ゆうちょ銀行から】口座番号 00980-7-57019 加入者名 セーブ・ザ・チルドレン・緊急援助基金
問) 0120-317-502(平日9:30~18:00)、e-mail donation@savechildren.or.jp 件名「ハイチ振込用紙希望」と記入

【クレジットカードでご利用の場合】

<http://www.savechildren.or.jp/contribute/index.html> 「緊急支援に寄付する」を選択

■セーブ・ザ・チルドレン

1919年に設立した子ども支援NGO。数少ない団体にだけ認められた、国連経済社会理事会(UN ECOSOC)のNGO最高資格である総合諮問資格(General Consultative Status)を取得しています。年間予算は1,000億円を超え、現在、世界で29カ国のそれぞれ独立した組織が、パートナーを組み、世界最大のネットワークを活かして、120カ国以上で活動を展開しています。90年渡る活動は、世界のNGOの代表格として各国政府からもその重要性を認められています。